

ものからその光の翳る、を見て忌々しげにおもはる、もなべての人の真情なれば、おほかたの世のならひのまゝに、事によりてはその日其夜を避て、ものするもよかるべきなり、

〔兩部神道口決抄〕日蝕月蝕釋教ニハ帝釋ト修羅ト鬪諍シ、修羅敗北ノ時逃隠ル處口見ザラシメンガタメ、日月ヲ晦クスト云云、五儒ニテハ、月ハ水ニシテ元來光リ無シ、日ノ光リヲ請テ以テ照ル、十五日ニ至テ日月相對スルノ時地球隔テ日ノ光リ月ニ遷ラズ月缺テ月蝕ト云フ、故ニ月蝕ハ十五日ニ限り、日蝕ノ事朔日ハ日月同時ニ出テ同時ニ入ル、日ハ遠ク月近ク、日ノ前ニ月重リ、月輪日ヲ隔テ日光缺、是ヲ日蝕ト號ス、故ニ日蝕ハ朔日ニ限レリ、修羅ノ敗軍ハ朔日十五日ニ窮ルヤ否ヤ、然モ吾儒ハ何時何刻何分ナン釐何毛缺ルコトヲ、百歲ノ前ヨリモ知ル、桑門ノ面々此事如何トスルヤ、釋教ノ虚妄ヲ可知、

〔玉勝間十四〕日食 月食 もろこしの聖人、日食月食のゆゑをだにえはかりまらで、わざはひとしたるもをかし、

〔塵袋〕一薄蝕ト云フハ何ナル蝕ゾ

京房ガ易ノ飛候白曰、凡日蝕皆於晦朔、不於朔者名曰薄ト云ヘリ、ウスキニハ非ル歟、

〔和漢三才圖會〕天陽曆陰曆 日蝕、南陽曆、北陰曆、月蝕、北陽曆、南陰曆、

帶蝕、有日月出入、日帶蝕、將復在東、漸虧在西、又有正交、中交、相交等數品、凡月蝕分天下皆同、

而日蝕分隨東西南北地在異、故有不全見蝕地、如日蝕有陽曆、則日北月南、故南方人所睹直而蝕、

分多、北方人所睹略齟齬而蝕分少、或無之、故年中月蝕多有、而日蝕少、按、日行不出二黃道外、其間、

四十七度、太、中間爲赤道、冬至行南黃道、漸北經十日、過二度六分餘、日欸夏至行北黃道、月行有、

九道、見子、有出於黃道外六度許、而有遲速、故與日常異道、朔初三日相會時、偶中于同緯、時月在日正下、

蔽也、人在其下觀之、故日光暫昏爲之日蝕、相離則隨日光見、謂之復、月望前後十四、十五、與日相對、